

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)	Health Service						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 琢也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	福祉施設において相談員として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科・3年生						
授業概要	MSW(メディカルソーシャルワーカー)に必要な知識を得ることを目標としつつも、何気なく過ごしている生活の中で必要な医療業界の仕組みについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					MSWの業務指針を踏まえつつ、MSWの持つ役割について説明することができる。	
		○				MSWの実践において求められるスキルについて説明することができる。	
		○				MSWの活動のフィールドである医療業界の仕組み、システムについて説明することができる。	
		○				診療保険制度、地域包括ケアシステムについての状況について説明することができる。	
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 新・社会福祉士養成講座17「保健医療サービス」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～MSWの概要～					
	2	MSWの役割(業務指針から)①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	MSWの役割(業務指針から)②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	MSWに求められるスキル①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	MSWに求められるスキル②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	診療報酬の流れ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	MSWの歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	社福士の診療報酬上の位置づけ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	保険の種類について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	病棟の種類について～病院のシステム～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	医療関連の専門職について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ(これまでに内容の復習)				定期試験の向けて、これまでの授業内容を確認しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	マナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	小川 智子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え、豊かな対人コミュニケーションの為の言葉遣いとマナーを身につける。実習先で誰からも好感・信頼感を持たれる実習生であるための、意識と知識の習得を目指す。社会人としての正しいマナー、慶弔の知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					実習生の品格について理解できる	
	○					電話応対や訪問時の正しい言葉遣いとマナーについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
	○					実習中の正しいマナーや報告、連絡、相談について理解し活用することが出来る	
			○			愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション・就職活動マナー(面接・手紙)					
	2	社会人1年生の正しい言葉遣い					
	3	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ					
	4	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ、名刺のマナー					
	5	新社会人の宴会マナー(言葉遣いとマナー)					
	6	年賀状のマナー、接待(ご案内)のマナー、職場の人間関係					
	7	席次のマナー、年末年始のマナー					
	8	席次のマナー、まとめ、茶菓の接待					
	9	冠婚葬祭のマナー、慶弔マナーのまとめ					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	基礎法学								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大谷美咲				
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	社会福祉科3年								
授業概要	法学の知識は、日常生活を送るうえで、必要なものです。本講義では、憲法、民法、刑法、労働法、行政法など幅広い領域の法律問題について取り上げていく。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	◎					身近な法律問題について問題の本質を的確に理解できるようになる。			
	○					基本用語について、簡単に説明できるようになる。			
		◎				法律問題について考えることにより、論理的思考力を身につけ自分の考えを的確に伝えることができるようになる。			
					◎	人権感覚を身につけ、価値相対主義を理解することによって紛争回避ができるようになる。			
テキスト・教材 参考図書	基礎法学 近畿大学九州短期大学通信教育部								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	法学の分類				テキスト1章Ⅲに目を通しておく。			
	2	憲法の全体構造、国民主権、象徴天皇制				テキスト第2章Ⅲに目を通しておくこと			
	3	幸福追求権、プライバシーの権利				プライバシーの侵害について考えてみる。			
	4	平等権				性別による不平等、ジェンダー問題について考えておく			
	5	生命倫理と法				身体・生命の自己決定権、尊厳ある死について考えてみることによって			
	6	政治と法				テキスト第2章Ⅳにめをとおしておくこと			
	7	犯罪と刑罰の法				テキスト第8章に目を通しておくこと			
	8	確認テストと解説				各テーマについて説明できるようにしておくこと			
	9	家庭生活と法 婚姻				テキスト第6章に目を通すこと			
	10	家庭生活と法 相続と遺言				テキスト第6章に目を通すこと			
	11	労働生活と法				テキスト第7章に目を通すこと			
	12	裁判の仕組み				テキスト9章に目を通すこと			
	13	裁判所見学及び裁判員制度体験				配布資料に目を通すこと			
	14	裁判所見学及び裁判員制度体験				裁判所について調べ、質問事項を考えておく			
15	まとめのテスト				全範囲の復習				
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	発表・授業参加度				◎		20%		
履修上の注意									

科目名	権利擁護と成年後見制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪 秀生		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	相談援助活動と法との関わりについて学ぶ。相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)について学ぶ。社会的排除や虐待等の権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助活動と法との関わりについて理解できる。	
	○	○		○		成年後見制度について理解できる。	
	○	○		○		社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症等の日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座「権利擁護と成年後見制度」における(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日本国憲法 人権			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	日本国憲法 統治機構			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	行政法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	民法 財産法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	民法 家族法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	成年後見制度 法定後見①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	成年後見制度 法定後見②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	成年後見制度 任意後見			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	日常生活自立支援事業			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	成年後見制度利用支援事業			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	権利擁護に関わる組織・団体			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	権利擁護に関わる専門職の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	成年後見活動の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	権利擁護活動の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ・振り返り						
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題・レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意							

科目名	言語表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	本スクーリングでは、東住吉小学校の4年生の児童に対して、車椅子・アイマスク体験を体験してもらうための授業を、学生自身が企画・準備し、「福祉」という分野の学習を小学生に「教える」ことを通して、自分たちの知識を深めたり、改めて社会福祉の面白さ・魅力・重要性について気づくことを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△	○		△		小学生の目線に立った授業内容を企画することができる	
	△	○		△		子どもたちと積極的に関わり、体験の方法や福祉について伝えようとする努力ができる	
				○		グループワークでの活動に積極的に参加し、授業をスムーズに運営する努力を行う	
	○			○		自分たちの実践を振り返り、課題を見つけ出し、実際に働く上での指針とすることができる	
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	アイマスク班・車椅子班に分かれ、それぞれの体験を企画			クラス18名がアイマスク班と車椅子班の2グループに分かれ、体験授業を企画		
	2	アイマスク班・車椅子班に分かれ、それぞれの体験を企画			クラス18名がアイマスク班と車椅子班の2グループに分かれ、体験授業を企画		
	3	学生だけでシミュレーションを行う			自分たちで企画した内容を体験してみる		
	4	シミュレーションを振り返り内容を修正する			体験後に再度検討し修正を行う		
	5	アイマスク班・車椅子班に分かれ、子どもたちに体験授業を実施			半日ずつで小学生に体験授業実施		
	6	アイマスク班・車椅子班に分かれ、子どもたちに体験授業を実施					
	7	アイマスク班・車椅子班を交代して、子どもたちに体験授業を実施			翌日に体験2日目。1日目にアイマスクを体験した子どもは車椅子。車椅子の子どもはアイマスク体験		
	8	アイマスク班・車椅子班を交代して、子どもたちに体験授業を実施					
	9	全体の振り返り			子どもたちが帰った後、片付けと振り返りを行う		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	話し合いへの参加状況	○	○		◎		30%
	子どもたちへの関わり	○			○		30%
	振り返りのレポート	○			○		40%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	交流ゼミⅢ-②					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科1年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持つて、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることが出来る。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「社福祭」に向けての準備				
	8	社会福祉科「社福祭」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験					
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品					
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	社会調査に携わったことがほとんどないと思われるが、今後ますます社会福祉専門職にとって重要となる。身近な問題や起こり得る生活課題を扱ながら、実際に調査の企画から結果考察までの一連の流れを体験することで実感の伴う知識の習得を目指す。①社会調査の意義と目的、②統計法(社会調査における倫理および個人情報保護)、③統計手法、④量的調査の方法、⑤質的調査の方法、⑥社会調査の実施にあたってのITの活用等						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		社会調査の意義・目的を説明することができる。	
				○		社会福祉領域の社会福祉調査の重要性を説明することができる。	
				○		社会調査にかかわる法律や倫理の重要性について説明できる。	
				○		量的・質的調査方法を説明できる。	
				○		社会現象の背景を推察し、「問い」をたてることができる。	
			○		初歩的な統計分析のいくつかを理解し活用することができる。		
テキスト・教材 参考図書	参考図書 米川和雄『ソーシャルワーカーのための社会調査の基礎 入門から社会福祉士国家試験対策まで』北大路書房 斎藤嘉孝『社会福祉調査 企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	①社会調査の意義、目的、②社会調査の対象、③ソーシャルワークと社会調査 演習:①生活の中にある社会調査を探す。「暮らしやすさ」の条件を挙げ、近くの			自己紹介ワーク記入		
	2	① 社会調査のはじまり②生活改善にかかわる社会調査② 社会福祉の歴史から みる社会調査の必要性③イギリスの社会福祉の歴史から学ぶ。					
	3	① 社会調査における倫理・個人情報保護・社会福祉士会倫理綱領、知的誠実 性等、②先行研究統計法 演習:どんな情報があれば個人は特定できるのか?			小テスト①		
	4	① 調査テーマ設定、②先行調査・先行研究確認、③調査票作成(依頼分/尺度 の質/質問の種類— 一体比較法、順位法、評価尺度法、選択法等)			課題①:自分の知りたい調査テーマを考える		
	5	自分の「?」を知る 図書館活用①自分の興味のある調査のテーマの先行研究 の有無を調べる。②自分の興味ある分野の論文を読んでまとめる。			課題①をもって授業に参加。 図書館活用		
	6	①質問紙とは、②回答方法とデータ収集法、(自計式調査と他計式調査、訪問・ 郵送・置き調査)③質問項目の作り方と留意点:測定の水準と信頼性・妥当性			小テスト②		
	7	① ① 量的調査と活用例、②量的データの集計(コーディング、単純集計と記述 統計、度数分布表、クロス集計表)					
	8	① 一体比較法を用いた調査の企画、②調査票の作成					
	9	① 統計的分析方法(有意確立における帰無仮説と対立仮説)②記述統計③推 測統計					
	10	① 質的調査と活用例②データ収集方法のいろいろ(観察法、面接法文献の利 用)、③質的調査の記録方法と留意点			課題:「将来への不安」 についてカードに記入してくる。		
	11	① ① 質的データの整理と分析方法(事例研究、KJ法、エスノグラフィ、GT法) ②KJ法による現象の構造化KJ法的手段で、書き出した言葉を分類し、できた山 グラウンデッド・セオリーを用いた理論の構築— データとの対話「将来の不 安」の理論化①前回作成したカードにラベリングをする。② ①をカード化し、上			課題の「将来への不安」を持ってくる。それを手掛かり授 業を進行する。		
	12	① 統計資料の閲覧:総務省統計局・厚生労働省等、②ITを利用した調査の展開 と問題点、②演習:地域福祉計画を読もう!			ITで資料を集める「自分の住む町の地域福祉計画」 をダウンロードし概観する		
	13	結果と報告②図表の使い方(棒グラフ、ヒストグラム、円グラフ、帯グラフ、折れ 線グラフ、レーダーチャート等)			小テスト③		
	14	まとめ 試験に向けて			小テスト④		
評価方法	(1) 授業のなかで小テストを4回実施。 (2) レポートを2回実施。 (3) 定期試験(筆記)を実施。これらをふまえ下記のように評価。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	状況によって授業内容を変更することがある。授業を円滑に進行するためには、課題は必ず作成して来ること。 スマホ等の携帯電話は、カバンの中に片付けておくこと。積極的な発言と質問を期待します。 ※5回の欠席で定期試験を受ける権利は消滅することを理解しておくこと。						

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	3	就職活動指導③(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	4	就職活動指導④(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	7	就職活動指導⑦(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	8	就職活動指導⑧(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	9	就職活動指導⑨(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	10	就職活動指導⑩(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	11	就職活動指導⑪(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	12	就職活動指導⑫(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	13	就職活動指導⑬(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	14	就職活動指導⑭(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
15	就職活動指導⑮(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと			
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位未取得となる						

科目名	情報処理Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Excelの操作方法の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。	
			○			Excelを使って、表作成、関数の挿入、グラフ作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 情報リテラシー入門編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	入力チェック・Excelの仕組み					
	2	入力チェック・計算式の挿入					
	3	入力チェック・簡単な表作成					
	4	入力チェック・関数の挿入(基本関数)					
	5	入力チェック・関数の挿入(応用関数)					
	6	入力チェック・カレンダーの作成					
	7	入力チェック・カレンダーの作成					
	8	入力チェック・カレンダーの作成					
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 (3)Excelでカレンダーを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	10分入力文字数			◎	○		40%
	授業内実施課題の提出			◎	○		40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	相談援助演習Ⅵ(保育・教職実践演習)						
科目名(英)	Exercises of Social Work Ⅵ(graduation research)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
	○			△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
	○			△		真理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
	○			△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
○			△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定					
	8	テーマ決定とグループの決定					
	9	中間発表に向けて研究					
	30	中間発表に向けて研究					
	31	本発表に向けて研究					
	60	本発表に向けて論文の完成					
	61	発表に向けてパワーポイントの作成					
	75	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	相談援助演習Ⅶ(卒研)						
科目名(英)							
単位数	5	時間数	30	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
	○			△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
	○			△		真理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
	○			△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
○			△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定					
	8	テーマ決定とグループの決定					
	9	中間発表に向けて研究					
	30	中間発表に向けて研究					
	31	本発表に向けて研究					
	60	本発表に向けて論文の完成					
	61	発表に向けてパワーポイントの作成					
	75	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高崎 修一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	地域福祉の実践に関する項目の授業となる。法制度やサービス体系、地域福祉に関わる人材、関係機関、団体等を学習をすることにより卒業後の将来に備える。専門職として地域福祉の推進に如何に関わってゆくか、どのようにしてフォーマル、インフォーマルなサービスに関わってゆくかなどを学ぶ。また最近の傾向として、1億総活躍プランにおける福祉の見直しに伴う福祉に関する法制度の改正等についても学習を行う。生活困窮者自立支援法、社会福祉法等の改正や社会福祉法人改革に伴う福岡ライフレスキュー事業、募金百貨店プロジェクトや貧困支援ネットワークふくおかなど実践事例を紹介。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉推進の実践に備える。	
		○				実践的知識を身に付け、それを活用できるような人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、自分が将来、地域福祉にどのように関わっていくのかを期待する。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる地域福祉 第5版(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	5章 地域福祉の政策、行政組織				特になし	
	2	地域福祉に関する法制度NPO法、日常生活自立支援事業同(DVD30分)				特になし	
	3	成年後見制度、民法873条2項、地域医療・地域保健、生涯学習				特になし	
	4	共同募金、テーマ型募金、募金百貨店プロジェクト、5章小テスト30分				特になし	
	5	6章 地域福祉のサービス体系 情報提供、相談体制、福祉ニーズ発見				特になし	
	6	ケアマネジメント、予防サービス、環境改善				特になし	
	7	在宅サービス、施設サービス、インフォーマルサービス				特になし	
	8	当事者活動、NPO活動、6章小テスト 30分				特になし	
	9	7章 コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポートNT、ボラコン				特になし	
	10	地域組織化、間接援助技術、福祉教育				特になし	
	11	8章 地域福祉の主体、担い手 CW,社協職員、ボラコン、ケアマネ				特になし	
	12	民生委員・児童委員、各種専門職、ボランティアに関して				特になし	
	13	9章 各種機関、団体(社協 DVD 30分)、社会福祉施設、行政機関				特になし	
	14	SHG,当事者組織、ボラセン、相談機関、				特になし	
15	10章、11章福祉のまちづくり、最近の動向、地域共生社会の実現等				特になし		
評価方法	5章、6章に関しての30分程度の小テストを行い合わせて100点満点とする。正試験100点満点との平均点にて評価を行うが、最低条件として正試験の得点が60点以上のものが評価の対象となる。評価基準は当校の基準にての5段階評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	生試験		◎				45%
	小テスト		◎				45%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。						

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	措置制度の時代からの名残であろうか現在でも通常のサービスと福祉サービスを別物として捉え、誤った理解がされている。世間だけでなくサービス提供する側でさえも多くの者が未だにその認識のままである。この授業では、契約制度の福祉サービスは今や身の回りにある一般のサービスと何ら遜色ないことを理解し現在の福祉サービスの概要だけでなく、組織や経営面まで学んでいく事で現場及び経営者側の両方の視点を身に付け、社会で応用できる力を養っていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				福祉サービスの概要について説明することができる	
		○				組織の概要を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サービスの理解					
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用					
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用					
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用					
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類					
	6	年金保険制度の理解-老齢年金					
	7	年金保険制度の理解-障害年金					
	8	年金保険制度の理解-遺族年金					
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件					
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野					
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野					
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野					
	13	雇用保険制度の理解-概要					
	14	雇用保険制度の理解-諸制度					
15	全体のまとめ						
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保育・教職実践演習SC								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	社会福祉科 3年								
授業概要	社会福祉科では、3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探索して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的として「卒業研究」を実施している。本スクーリングでは、そのテーマを決定するためのプレゼンテーションと、進捗状況を報告する「中間発表」を行う。そして最終的に2月に本発表を行う流れになっている。								
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。			
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。			
		○		△		真理を探究し、客観的・論理的に考えることができるようになる。			
	○	○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。			
○	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる				
テキスト・教材 参考図書	特になし								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	1日目 卒業研究として追及したいテーマをグループもしくは個人で発表を行う				9月末に実施			
	2	1日目 テーマ発表の続き							
	3	1日目 テーマ発表の続き							
	4	1日目 発表を聞いてテーマとグループについての話し合い							
	5	2日目 グループ毎に中間発表を行う				11月後半に実施 (発表30分質疑応答20分)			
	6	2日目 グループ毎に中間発表を行う							
	7	2日目 グループ毎に中間発表を行う							
	8	2日目 グループ毎に中間発表を行う							
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
15									
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	卒業研究への取り組み状況	○	○		◎		20%		
	グループ活動の参加状況	○			○		20%		
	内容の理解	○	○		○		20%		
	発表のスキルと意欲	○			◎		20%		
自己とグループの振り返り				◎		20%			
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。								